



ふれ愛古町 29日閉鎖

新潟市

「にぎわい創出に効果」

地元取り組み続模索

新潟市中央区の旧大和新潟店1階を暫定的に利用し、昨年8月に開設された公共スペース「ふれ愛古町」が29日で閉鎖される。利用者からは閉鎖を惜しむ声があり、関係者は「にぎわい創出に一定の効果はあった」と評価する。地元商店街では閉鎖後も近隣の空き店舗などを活用して、これまで同様のイベントができるか模索する動きもある。

ふれ愛古町は、市が新託し、常設の子育て支援スペースや演奏ステージ

のほか、定期的にワークショップや物産品販売などのイベントを開催。2

月末までに延べ約19万6千人が訪れた。しかし、大和(金沢市)が2月に表明した同店の再開発計画の中身が不透明なことから、市は大和側との賃貸契約を更新せず、3月末で閉鎖することを決めた。

25日から始まった県

旧大和新潟店内の「ふれ愛古町」。最後の物産展が開かれている=25日、新潟市中央区

お年寄りらが詰め掛けた。近所に住む女性(65)は「大和地下の食品売り場でよく買い物をしていました。閉店後もこういう場所があり、助かっています。ただ、閉店後もこういうところだけれど」と寂しそうだった。

市経済国際部の能登谷巖部長は「にぎわい創出のほか、利用者のネット

続させようと懸命だ。同店前のスペースを使って市場の開催を計画している

一方で、閉鎖後は再び古町十字路の一角から明かりが消えることになる

れ愛」の取り組みを継続する。地元の商店街では「ふ

るほか、空き店舗を活用して同じ機能を引き継ぎ強調する。

一方で、閉鎖後は再び古町十字路の一角から明かりが消えることにならぬか検討を進めてい

る。新潟中心商店街協議会の古館邦彦理事長は

「何とかにぎわいを継続していきたい」と話している。

会の古館邦彦理事長は「何とかにぎわいを継続していきたい」と話している。